

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年6月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1090200013
法人名	社会福祉法人 タービュランス福祉会
事業所名	グループホーム乗附
所在地	群馬県高崎市乗附町1200-1 (電 話) 027-395-6085
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年12月11日

【情報提供票より】(19 年 11月 12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算	6.6人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,500 円	その他の経費(月額)	無
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日 900円		

(4)利用者の概要(11月 12日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.4 歳	最低 74 歳	最高 97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	松岡病院 ・ 神田医院 ・ 松岡皮膚科等
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、郊外の住宅や畑が広がる静かな環境に設置されている。食堂ホールは吹き抜けとなっており、開放感がある。屋内は採光に配慮され、明るい雰囲気づくりとなっている。庭には畑があり、入居者は職員と共に畑仕事を楽しんでいる。まだオープンして間もないホームであるが、職員は明るく、穏やかなケアの様子が伺え、言葉遣いも丁寧である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初めての外部評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	評価項目を職員も確認し、ホームは、家庭での生活の延長として捉え、職員間で意見を出し合い、管理者と共に話し合いケアの質向上に努めている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議には、市職員、町内会の班長、入居者家族2名、管理者等が出席している。会議では、ホームでのヒヤリハット事例検討等の意見交換を行っている。会議の内容は、職員に伝えられ話し合い、ケアに活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	面会時に、入居者の生活の様子を家族等に伝え、意見等を聞くようにしている。また、意見箱を設置している。運営推進会議の議事録を、家族が閲覧できるようにしている。出された意見は、月2回の職員会議で検討している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	散歩の際に、挨拶を交わしている。また、町内会の班に加入し、職員と入居者で草むしりや町内清掃に参加している。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念と統一の理念を掲げて、入居者の持っている力を活かし、本人のペースで生活できるよう、待って見る介護に心がけている。	○	法人としての理念を重要視しながらも、地域密着型サービスとしての理念について、事業所独自のものをホームの状況に配慮して、職員で検討して作り上げることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲示している。また、職員に配布し、理念を共有している。理念に沿って自由に過せるよう、入居者の希望に副って、散歩や買い物等の外出の付き添いに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の際に、地域の方々と親しく挨拶を交わしている。また、町内会の班に加入し、職員と入居者で草むしりや町内清掃に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての外部評価である。自己評価にあたっては、評価項目を職員も確認し、ホームは家庭生活の延長として捉え、日々職員間で意見を出し合い、管理者に話したり、申し送りノートで知らせたり、日々の問題をミーティングで提案してケアの質向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、市職員、町内会の班長、入居者家族2名、管理者等が出席している。会議では、ホームでのヒヤリハット事例検討等の意見交換を行い、ケアに活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市窓口を訪問している。また、市の事業である介護相談員の訪問活動を毎月1回2名の訪問を受け入れ、入居者との交流や意見交換を行いケアの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日頃の様子は、面会時に報告している。通院や緊急的なことには、電話連絡をしている。また、内容によっては、家族へ手紙で伝える場合もある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、意見等を聞くようにしている。また、意見箱を設置している。運営推進会議の議事録を、家族が閲覧できるようにしている。出された意見は、月2回の職員会議で検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動がある時は、入居者へ挨拶を行い、入居者の生活への影響が出ないように、記録等情報の申し送りを徹底している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修や外部研修へ出席している。法人本部から、外部の研修や資格取得情報の伝達等回覧が周り、学習の機会を作るよう配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内のグループホームとの運動会や月1回の会議等で、情報交換の機会を設けケアの質向上を図っている。	○	グループホーム連絡協議会等、ホームの運営や職員の育成に役立つ同業者間の連携に期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の申込者に対しては、ホームの見学をしていただいている。また、職員が訪問して、本人の状況の把握に努め、入居準備の環境を整えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	折り紙やカルタ等のレクリエーションを一緒にしたり、昔話を聞いたり、生活状況を聞いたり、朝の掃除・食事の用意やご飯盛り付け、洗濯物をたたんだり等を一緒にやっている。ホットケーキ作りをして共同での作業の機会を設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護支援専門員を中心に職員や家族と情報を交換しながら、入居者の意向把握に努めている。入居時に、生活歴や希望を聞き、介護計画に役立てている。	○	本人の視点に立って、長年馴染んできた生活スタイルや習慣・嗜好等を参考にその人らしさに少しでも近づけた生活が送れるよう、アセスメントの工夫を望みたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者・家族の意向や職員の意見を取り入れて介護計画を作成し、説明を行い家族からの同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、介護認定の更新時や状態の変化があった時に、見直している。モニタリングについては、介護支援専門員を中心に職員や家族と情報を交換しながら、介護計画の見直しに役立てている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添いや化粧品・衣料品・日用品の買い物の支援等本人や家族の要望を取り入れながら行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診している。また、家族の協力を得ながら、職員の付き添い等の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の時から、健康状態に応じて、主治医・家族と相談しながら希望を聞き、意向に配慮して対応することの説明がされている。また、緊急時についても対応の説明を行い、職員には申し送り等で周知されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	採用時や職員会議等で、プライバシーに配慮したケアや個人情報の保護についての守秘義務についての説明がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や入浴等入居者の生活のペースについて、自宅での様子を家族や本人に確認しながら、その人のペースで生活できるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の主体性を尊重できるよう、野菜の皮むき等食事の準備やおしぼり配り、テーブル拭き、「頂きます」の声かけを当番で行う等、入居者が出来ることをしていただけのよう支援している。また、2つのメニューから選択する献立を作成するなど、食事を楽しめる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回であるが、入居者の体調や希望に応じ変更している。また、声かけしながら、一人ずつ順番に入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草むしり・水やり・収穫等の畑仕事を入居者と一緒に行ったり、土曜日に買い物に出かける等外出の行事を多く持つよう心がけ、一人ひとりに役割や楽しみが持てるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は、原則毎日行なわれている。また、希望を聞きながらドライブ等の外出支援も行なわれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵をかけないケアを実践しており、職員の見守りがされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行い、消防署に報告している。近隣には、災害時の協力依頼をしており、フローチャートによる連絡網が作成されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が献立の作成に協力し、栄養のバランスに配慮した食事が提供されている。一人ひとりの食事チェックや健康チェックの表を独自に作成し、記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の天井が吹き抜けとなっているため開放感があり、採光が採られ明るい雰囲気になっている。季節感が出るような飾り付けもされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたタンスなどの家具や置物が持ち込まれていて、家庭的な雰囲気である。		